

## 南湖に放流したホンモロコ標識魚(平成28年度放流群)の追跡調査

米田一紀・岡本晴夫・根本守仁・片岡佳孝

## 1. 目的

かつてホンモロコの主要な産卵場であった南湖は、現在ほとんど産卵が確認されなくなっている。そのため、産卵繁殖場から北湖までの連続性を確保した水草刈り取りおよび標識種苗放流を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗を追跡調査することにより、南湖から北湖への移動分布の把握と産卵状況および親魚来遊状況調査によりホンモロコの再生産を確認し、増殖促進効果を実証する。本項では平成28年に下笠地先で放流されたホンモロコ標識魚(以下、下笠放流魚)の追跡調査について報告する。

## 2. 方法

① 南湖での稚魚分布状況調査：下笠地先で標識放流された全長20mmの下笠放流魚101万尾の分布を把握するため、6/8から7/19までの期間に計4回、放流場所を中心にビームトロール網による採集調査を行った。また、放流後から8/19にかけて南湖のエリによるホンモロコ稚魚混獲魚の標識調査を行った。

② 琵琶湖北湖での標識魚分布調査：北湖における南湖放流魚の分布状況および混獲状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚(刺網、沖曳網)の標識調査を行った。

## 3. 結果

① 南湖での稚魚分布状況調査：ビームトロール網による調査ではホンモロコの稚魚は採捕されなかった。エリによる調査では3,265尾の稚魚が採集された。そのうち2,157尾が下笠放流魚であった。そのうちの8割近くは放流から1週間以内の採捕であったが、調査終了の8/19まで継続的に採捕された。

② 琵琶湖北湖での標識魚分布調査：秋期

(10/8～11/12)の刺網漁獲魚のうち当歳魚1,825尾を調査したが、下笠放流魚は採捕されなかった(表1)。一方、冬期(1/7～3/1)の沖曳網漁獲魚のうち当歳魚5,656尾を調査したところ、下笠放流魚の再捕は11尾となり(表2、図1)、昨年(4尾)よりも増加した。しかしながら、生残率は0.91%と非常に低い状態にある。

表1 秋期の刺網によるホンモロコ再捕状況

放流地点および全長	放流尾数(尾)	補正再捕尾数(尾)
水田 全長20mm	6,355,000	754
赤野井水田 全長20mm	447,700	4
草津市下笠 全長20mm	1,012,000	0
赤野井耕耘区 全長50mm	18,600	0
無標識		1,067
		1,825

表2 冬期の沖曳網によるホンモロコ再捕状況

放流地点および全長	補正再捕尾数(尾)	生残率(%)
水田 全長20mm	2,351	30.98
赤野井水田 全長20mm	73	13.65
草津市下笠 全長20mm	11	0.91
赤野井耕耘区 全長50mm	1	4.50
資源推定用 全長100mm	134	100.00
無標識	3,086	
	5,656	

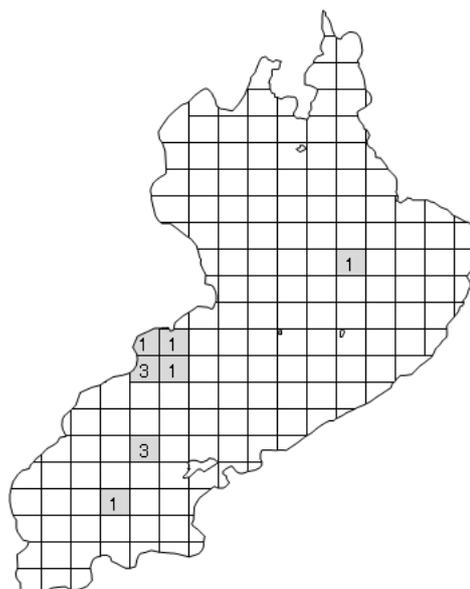


図1 北湖での下笠放流魚の再捕地点と尾数